

区長所信表明

項目

- 1 はじめに
- 2 現在策定中の諸計画について
 - 産業振興プラン
 - 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
 - 障害福祉計画
 - バリアフリー基本構想
 - 緑の基本計画
- 3 補正予算について

一般質問

12月2日の本会議において、区長・教育長に対し、各会派の代表8名による一般質問が行われました。質問と答弁の要旨は次のとおりです。



台東区議会自由民主党・無所属の会

たかもり きみこ
高森 喜美子

区有施設の保全計画について

問 昭和59年以前に建築された区有施設は、全体の46%にあたり、大規模な修繕を要する。財政負担を平準化し、必要性や優先度を見極めた保全計画を策定すべきではないか。**答** 区有施設は、常に安全で安心して利用できるよう、適切な維持・保全を図っている。特に、耐震化が必要な施設には、耐震化整備プログラムを策定し、積極的に整備を進めている。今後は、財政負担の平準化をはじめとする経営的視点が必要であり、来年度は、行政経営推進プランに基づいた基本方針を策定したいと考えている。その後、中長期的な展望に立った保全計画の策定を検討し、施設の効率的かつ計画的な維持・保全を図っていく。

地域防災計画について

問 ①職員行動マニュアルの改訂にあたり、どのような工夫を行っているのか。②地域の現状を把握するため、町会や住民に防災に関するアンケート

調査を実施すべきではないか。③町会による防災マニュアルの策定を、区が支援すべきではないか。④地域特性を考慮した防災資機材のあり方を検証し、標準的な整備のあり方を示すべきではないか。⑤避難所運営委員会の活動をどのように支援していくのか。⑥企業に対して、地域との連携や防災対策をどのように促していくのか。**答** ①震災対応の教訓等を踏まえた見直しに加え、被災地への派遣により避難所運営等を経験した職員の意見を反映させる。さらに、職員が迅速、的確に対応できるよう、行動フローの策定や個別の活動マニュアルの追加整備を行う。②23年に実施した区民意識調査では、防災に関する設問を増やした。町会への調査は、12月中の実施に向けて準備を進めている。調査結果を地域防災計画の修正等に反映させていく。③専門的なアドバイス等を行うなど、積極的に支援していく。④自主防災組織の標準的な資機材配置例を示すとともに、適切なアドバイスを行う等、地域特性に即した効果的な資機材になるよう提案していく。⑤避難所となる学校等の施設管理者と協力して、避難所ごとに運営に関する協議の場を設けるとともに、マニュアルづくりの支援を行う等、避難所対策を積極的に推進していく。⑥企業がとるべき防災対策については、現在検討中の災害対策に関する基本条例に盛り込み、それらの対策が効果的に進められるよう様々な方策を検討していく。



台東区議会区民クラブ

いとう まんたろう
伊藤 萬太郎

風呂難民対策について

問 公衆浴場は利用者が激減し、特に区の南部地域での廃業が相次いでいる。①廃業しても、風呂釜や設備の残っている公衆浴場については、再開の可能性を検討してはどうか。②公共施設の一部を改修し、入浴施設を設置してはどうか。③自宅に風呂がない高齢者に対し、めぐりん等を活用して送迎を行うことを検討してはどうか。**答** ①これまで高齢者入浴券の配布や浴場の設備改善助成等を実施し、廃業に至らないよう支援してきた。一度廃業となった公衆浴場の再開には、運営事業者や施設の復旧にかかる経費など、様々な課題が想定されるため、今後研究していく。②現在は、入谷と三筋の老人福祉館に入浴施設を設置している。その他の公共施設を改修して入浴施設を設置することは、本来の施設機能に影響を与えることから難しいと考えている。③自家風呂を持たない高齢者が浴場を利用しやすくなるよう、めぐりんの活用を含め、どのような支援ができるのか検討していく。

徒蔵地区のバックアップ体制について

問 区の南部地域は、徒蔵(かちくら)と呼ばれ、上野・浅草に次ぐ第3の産業観光地域として、脚光を浴びている。①徒蔵地区がさらに飛躍するよう応援体制を整えるべきではないか。②JR浅草橋駅高架下や旧福井中学校跡地施設を活用した徒蔵地区の活性化対策を考えるべきではないか。③徒蔵地区の中央に位置する新御徒町駅は、つくばエクスプレスと都営大江戸線のそれぞれの改札口が離れている。改札口の改善により、利便性が高まれば、まちの賑わいやイメージアップにも繋がると考える。早急に対策を講ずるべきではないか。**答** ①本区が「ものづくりのまち」であることをPRし、まちの魅力を高めるイベントへの新たな助成制度を立ち上げ、さらなる支援を行っていく。②旧福井中学校跡地施設に整備される産業観光情報コーナー等を活用し、徒蔵地区における様々な取り組みを積極的に支援していく。JR浅草橋駅高架下は、若いデザイナー等が活用しやすい環境づくりをJRに働きかけていく。③台東区バリアフリー基本構想の改定作業において、各事業者と協議する中で、鉄道事業者に申し入れていく。



台東区議会公明党

まつお のぶこ
松尾 伸子

入谷駅周辺のバリアフリー化について

問 ①入谷駅上野方面行きホームのバリアフリー化については、地域の方々から強い要望が寄せられている。早急な対策が望まれるが、区長の決意を伺う。②昭和通りと言問通りとの交差点付近は、人の流れや駐輪が多く、安全性が懸念されるため、総合的な対策が必要ではないか。**答** ①入谷駅上野方面行きホームのエレベーター設置については、東京メトロと区、さらに国を交えた協議の結果、東京メトロにより、区の自転車駐車場の改築と一体的にエレベーターが設置されることになった。この機を捉え、入谷駅のバリアフリー化に向けて力を注いでいく。②昭和通り及び言問通りの交差点は、これまでの台東区バリアフリー基本構想に引き続き、バリアフリー化を進める経路として指定する方針である。今後、道路管理者が段差解消等の整備を進めるなど、安全性の確保により一層配慮していくとともに、関係機関と協力し、バリアフリー化の推進に努めていく。

発達障害児の支援について

問 ①乳幼児健診時に発達障害の兆候を発見できるよう工夫を凝らした問診票を導入すべきではないか。②4歳6か月児の発達健診を実施すべきではないか。③松が谷福祉会館では、小学校1年生まで療育支援を行っているが、今後、中学校3年生まで拡大すべきではないか。④発達障害児の継続的支援のため、支援情報等の記録を保護者と関係機関が情報共有していくべきではないか。**答** ①乳幼児健診については、これまで質問票等により発達の状態を確認し、必要に応じて専門の心理相談等を案内している。問診票の工夫については、国などの研究の動向もふまえ、引き続き努力していく。②先行自治体での実施状況や効果について研究していく。③松が谷福祉会館では18歳まで相談支援を実施している。学齢期における、社会性やコミュニケーション能力などの一層の向上を図るための療育内容については、引き続き教育委員会と慎重に検討していく。④発達障害のある子どもたちの成長過程や療育内容についての情報を、保護者及び関係者の間で大切に引き継いでいける仕組みや方法について、検討していく。